TOPICS

保護者との連絡を、もっとスム ーズに。
熱き情熱コーポレーションが 実践する、
FLENS School Managerの 導入と活用

理科と数学に強い塾 合格 Tosemi

保護者への連絡やお知らせの配信は、教室運営に欠かせない業務の一つ。一方、手軽な連絡手段であっても、メッセージの確認や情報の整理に手間がかかることがある。大分県を中心に学習塾などを展開する東セミグループ（株式会社熱き情熱コーポレーション・阿部賢悟代表）では、従来、LINEで行っていた保護者とのやり取りを見直し、FLENS School Manager（以下、スクールマネージャー）を導入した。まずは同社が運営する学童保育で試験的に運用し、その後、塾の各教室にも順次導入した。欠席連絡の管理やお知らせの配信など、日々の業務にどのような変化が生まれたのか。導入の経緯と現在の活用状況、今後の展望について話を伺った。

連絡業務の負担を見直し、まずは学童保育から導入へ

当社では、これまで保護者との連絡手段として、紙のお知らせに加えてLINEも活用していました。手軽にやり取りできる一方で、教室側では一つひとつのメッセージを確認する必要があり、担当者の負担になっていました。例えば、欠席連絡にも、「いつもお世話になっております」といった挨拶を添える保護者が少なくありません。教室側ではメッセージを開き、欠席連絡なのか、別の問い合わせなのかを確認する必要がありました。管理者である教室長が不在の日には、緊急の連絡に対応しにくいという問題もありました。一つひとつは小さなことですが、日々の業務の中で不便が積み重なっていました。

スクールマネージャーについては、以前から業界内での評判や搭載されている機能を知っていました。多機能でありながら操作性にも優れている点に魅力を感じ、導入のタイミングを見計らっていました。いきなり全教室に導入するのではなく、まずは自社で運営する学童保育施設で試験的に運用を始めました。そこで手応えを感じたことから、学童保育への導入から約半年後、塾の各教室にも順次導入しました。社員が1～2人で運営する教室など、少人数の教室を優先して導入を進めており、全教室への導入にはもう少し時間がかかる見込みです。



（株）熱き情熱コーポレーション
代表取締役社長　阿部 賢悟 氏

欠席連絡や問い合わせへの対応をスムーズに 日々の業務に生まれた変化

導入後、便利だと感じている機能の一つが、欠席連絡の管理です。スクールマネージャーでは、欠席連絡を一覧で確認できます。そのため、個々のメッセージを開いて確認する手間が省けます。欠席連絡など、確認するだけでよいには返信が不要な点も助かっています。スタッフは午後1時ごろから会議や研修に参加し、午後4時ごろに教室へ向かうこともあります。以前は、教室に着くと複数のLINEメッセージへの対応が必要でしたが、現在は欠席状況や対応が必要な連絡を把握しやすくなりました。こうした確認作業の負担が軽減されたと感じています。



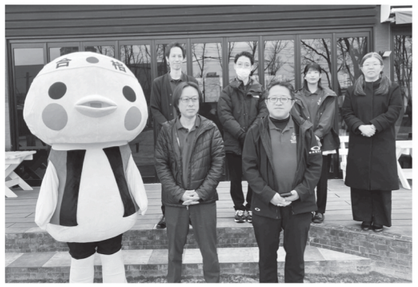
導入にあたっては、FLENSの担当者にほぼお任せしていました。保護者への事前案内の方法や配布資料も用意されていたため、準備に手間をかけることなく運用を開始できました。保護者の登録も順調に進みました。一方、成績表などの資料は、現時点では学校から配布されたものを持参してもらうなど、従来の方法を続けています。すべてを一度に切り替えるのではなく、必要性や運用のしやすさに応じて活用しています。



各教室の活用を支え、さらなる業務改善へ

現在、スクールマネージャーの活用方法は各教室の判断に任せており、本部で一律に管理しているわけではありません。そのため、導入時期やスタッフの状況によって、活用の度合いには差があります。学年や学校ごとに配信対象を使い分けるなど、必要な相手に情報を届ける工夫は進んでいますが、教室によっては複数の学年・学校をまとめて配信するケースもあります。

導入時には、FLENSによるスタッフ研修も実施されました。ただ、後から導入した教室の中には、研修を受けていないところもあります。各種設定や使い方についてはFAQで解決できることも多く、日常的な疑問にも対応できています。さらに、必要に応じて、今からでも全スタッフ向けの研修を実施してもらえると聞いています。導入時だけでなく、その後のサポートも非常に手厚いと感じています。



配信状況については、既読・未読や閲覧回数などを確認していますが、全教室のデータを横断して分析するところまではできていません。今後は、各教室での活用事例を共有するとともに、配信状況の分析も進め、より効果的な情報発信につなげていきたいと考えています。現在、面談などの予約管理には別のツールを利用していますが、今後はスクールマネージャーへの移行も検討していきたいと考えています。また、SNSへのシェア機能についても、外部生が参加できるイベントの告知などに活用できないか、可能性を探っていきたいと思います。

School Manager
製品紹介ページは
こちら







お知らせ機能とPDF配信で、情報共有を効率化

お知らせを配信し、履歴を一覧で残せる点も便利です。生徒にプリントを渡しても、保護者にまで情報が伝わっていないことがありますが、スクールマネージャーなら保護者に直接情報を届けられ、あとから内容を確認してもらうこともできます。PDF資料をまとめて送信できるため、配布の手間を減らせる点も助かっています。



また、学年や学校ごとに配信対象を使い分けられるため、それぞれに必要な情報を届けやすくなりました。イベントの概要やテスト対策講座のスケジュールも保護者に案内できるようになりました。こうした機能の活用もあり、イベントやテスト対策講座への参加率が上がっています。

保護者がお知らせを確認したかどうかは、既読・未読や閲覧回数から把握できます。配信状況を確認し、今後の情報発信に活かしていける点もメリットだと感じています。

